

**意見検討結果一覧表**  
 （案名：第3期県立高等学校再編計画（当初案）についての意見募集）

番号	意見箇所	意見	類似意見件数（件）	検討結果（県の考え方）	決定への反映状況
1	Ⅲ1(1)	再編を進めるにあたり、教職員の確保と適切な人員配置が不可欠です。教員が授業に集中できる環境を整え、特別支援や不登校経験者の受け皿としての役割も重視してください。遠隔教育や専門教員の兼務、企業との連携など柔軟な対応策を講じ、多様性に応える学校づくりを進めることを求めます。	44	再編にあたり、教職員の適切な配置に加え、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用、ICT整備等により教員が授業に専念できる環境づくりを進めます。また、遠隔教育の推進や企業等と連携した魅力化事業を通じて、生徒の多様なニーズや背景に応える、インクルーシブな教育環境の構築に取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>
2	Ⅲ1(1)	地域産業の担い手確保は喫緊の課題であり、再編計画においては地元の基幹産業に資する専門教育を存続・充実させる必要があります。高校卒業後すぐに地元で働ける人材を育成するため、地域産業と連携した教育を継続してください。	22	地域社会や地元企業等と連携・協働し、高等学校の特色化・魅力化を進めながら、地域への理解を深め、地域や地域産業を担う人材の育成に向けた教育環境の構築に取り組んで参ります。	C <sub>趣旨同一</sub>
3	Ⅲ1(1)	県立高校の再編にあたり、今ある高校を維持することを強く求めます。地域の実情に合わせた柔軟な学校維持により、地域の過疎化を防ぎつつ、生徒の学びの機会を保障してください。	19	今後も見込まれている生徒数減少により、更なる学校の小規模化が懸念される中、広い県土と多くの中山間地を抱える本県の地理的状況を踏まえ、生徒の教育の機会の保障に向けた学校の配置に取り組んで参ります。	C <sub>趣旨同一</sub>
4	Ⅲ1(1)	生徒数減少の現状はやむを得ないと理解しており、策定された5つの方針の方向性は妥当であると評価します。再編計画の趣旨には賛同しつつ、地域性・産業性・教育環境への配慮を十分に反映させることで、持続可能な教育体制を構築していただきたいと考えます。	4	今後の本県における高等学校教育の基本的な考え方として5つの柱を軸に、各県立高校の役割や特色等に応じた教育環境の構築に取り組んで参ります。	C <sub>趣旨同一</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
5	Ⅲ1(2)	高校の定員や募集停止基準については、柔軟な対応を求めます。中学校同様に1学級を35人や30人とすれば、よりきめ細かな教育が可能になります。国の基準が難しい場合は、他県と連携して改善を要望していただきたいです。特に専門高校は少人数教育に強みがあり、現行の定員40人は多すぎると考えます。	13	教職員定数の改善については、引き続き国にも要望するとともに、今後の状況変化等があれば少人数学級の配置を改めて検討して参ります。	D <sub>参考</sub>
6	Ⅲ1(2)	1学級校の募集停止について、「2年連続20人以下で募集停止」という基準は、中学生の進学決定や先生方の進路指導に影響を与える恐れがあります。募集停止の判断にあたっては、地元自治体と十分に協議し、地域の実情を踏まえた柔軟な対応を行うべきです。	10	1学年1学級校の存在が、高校を核とした地方創生の推進に大きな役割を果たしている地域において、所在する自治体等と連携することで教育活動の充実が図られている場合、1学年1学級校の普通高校については「地域校」とし、地域における学びの機会を保障することとしています。	C <sub>趣旨同一</sub>
7	Ⅲ1(2)	「管理運営に関する規則」において、定員割れが2年続いた場合は募集を1学級減らし、指導環境を整える方向で対応することを求めます。	4	「岩手県立高等学校の管理運営に関する規則」に基づき、志願者が1学級定員(40人)以上不足する場合、学級減を検討します。判断にあたっては機械的に行うのではなく、入学者の状況や地元自治体との連携による教育活動の充実、中学校卒業予定者数の推移等を慎重に見極めて対応します。	C <sub>趣旨同一</sub>
8	Ⅲ1(2)	職業教育のセンター・スクールでは、地域産業のニーズを踏まえ、地元企業が求める人材育成に取り組む必要があります。産業界との連携を強化し、地域の基幹産業を支える教育を充実させてください。	3	農業、工業、商業の専門分野の中心的役割を担う専門高校については、学校規模を維持することにより、専門分野の多様な学びの機能を有する職業教育のセンター・スクールとして、教育内容の充実を図ります。	C <sub>趣旨同一</sub>
9	Ⅲ1(2)	小規模校は地域活性化や若者の地元定着に不可欠であり、きめ細かな指導が大きな魅力です。郷土愛を持つ生徒が将来地域を支える人材となるため、その存在意義は極めて重要です。	3	第3期県立高等学校再編計画の方針の基本的な考え方の5つの柱の一つに、「地域や地域産業を担う人材の育成に向けた教育環境の構築に取り組む」を掲げており、この考え方を大切に取り組んで参ります。	C <sub>趣旨同一</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見 件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
10	Ⅲ1(2)	少子化に伴う統合や学級減、募集停止はやむを得ないと理解しています。「高校がなくなると町が衰退する」という地域の声に偏りすぎ、本来最優先されるべき子どもたちの学びが置き去りにされているのではないかと疑問を感じます。	3	本計画では、現状と課題を踏まえ、今後の本県の高 等学校教育を支える5つの柱を基本に、各県立高校の 役割や特色に応じた教育環境の構築に取り組んで参り ます。	C <small>趣旨同一</small>
11	Ⅲ1(3)	高校再編に伴う通学区域の見直しにより、生徒の通学負担が 増すことへの懸念がある。特に経済的格差が進路選択に影響し ないよう、通学支援などの配慮が求められる。	3	通学区域の設定の趣旨や志願状況の動向を踏まえ、 今後の在り方を検討して参ります。あわせて、学校統 合を行う場合で、かつ、通学が困難となる場合には、 地元市町村と連携し、通学等の支援の在り方について 検討して参ります。	D <small>参考</small>
12	Ⅲ1(3)	募集停止基準で高校数が減る見込みがあり、通学可能な選択 肢が狭まり自由な進路選択が難しくなることを懸念する。卒業 予定者の減少は理解するが、通学区域の再編は生徒の学びの機 会を奪わないよう慎重に進めてほしい。	2	本計画の策定を踏まえ、通学区域の設定の趣旨、入 学者選抜における志願状況の動向等を見ながら、今後 の通学区域の在り方について検討して参ります。	C <small>趣旨同一</small>
13	Ⅲ1(4)	再編により遠方通学を余儀なくされる生徒への対応として、 寮の整備を求めます。財政難は理解しますが、シェアハウスの 建設や民間宿舎の活用など柔軟な方法を取り入れ、親元を離れ る生徒に対して細やかな支援を行っていただきたいです。	13	将来的な生徒数の減少により、寮の整備が必要とな る場合も視野に、通学支援の在り方について検討して 参ります。	D <small>参考</small>
14	Ⅲ1(4)	統合や集約は避けられないと理解していますが、下宿費の負 担が過疎地域の家庭にとって極めて重く、教育機会の均等を損 なう恐れがあります。特に過疎地域の家庭に配慮し、下宿費へ の補助制度を充実させ、経済的支援を強化していただきたいで す。	12	将来的な生徒数の減少や、広大な県土を有する本県 の通学事情等を考慮し、学校統合を行う場合で、か つ、通学が困難となる場合には、地元市町村と連携し た通学等の支援の在り方について検討して参ります。	D <small>参考</small>
15	Ⅲ1(4)	沿岸部や県北地域では通学手段が乏しく、路線バスの廃止も 進む中で通学環境の整備が必要です。三陸鉄道利用地域では通 学費補助の継続と鉄道維持を強く求めます。教育機会の平等と 交通利便性の確保を両立させる横断的な検討を行っていただき たいです。	6	将来的な生徒数の減少や、広大な県土を有する本県 の通学事情等を考慮し、学校統合を行う場合で、か つ、通学が困難となる場合には、地元市町村と連携し た通学等の支援の在り方について検討して参ります。	D <small>参考</small>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
16	Ⅲ2(1)	私学志向の高まりに負けないよう、県として県立高校の魅力化を積極的に進めていただきたいです。受験生自身に響くPR活動が重要であり、とりわけ小規模校が重点的に取り組むことで、地域に根ざした魅力ある学校づくりにつながると考えます。	11	生徒の学習意欲を喚起し、一人一人の可能性や能力を最大限に伸ばすため、高校の特色化・魅力化を推進し、各高校によるスクール・ポリシーを踏まえた教育活動の充実に取り組んで参ります。	C <sub>趣旨同一</sub>
17	Ⅲ2(1)	統合するだけでなく、教育方針や特色あるカリキュラムを検討し、魅力ある学校にしていきたいです。地域産業を担う人材育成のためには、地域課題を学ぶ学科や柔軟な教育課程が必要です。さらに、登校しながらオンライン授業を受けるなど、多様な学び方を取り入れる教育環境の整備が魅力化につながると考えます。	9	生徒一人一人の特性に応じた多様な可能性や能力を最大限に伸ばし、各自の希望する進路の実現を可能とする生徒を主語とした教育環境の構築に取り組んで参ります。	C <sub>趣旨同一</sub>
18	Ⅲ2(1)	各高校で特色化・魅力化を進めることは重要ですが、それに伴い教員の負担が増え、授業準備等の時間が削られることを懸念します。高度な指導力を持つ教員の採用や適正な人事配置を行い、ソフト面にも特色に応じて予算を重点的に配分していただきたいです。	6	再編にあたり、教職員の適切な配置に加え、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用、ICT整備等により教員が授業に専念できる環境づくりを進めます。研修の充実等により指導力の確保を図るとともに、学校の状況に応じた適正な人事配置に努めます。また、ソフト面でも各校の特色に応じた教育活動の充実に必要な予算配分や支援を行って参ります。	C <sub>趣旨同一</sub>
19	Ⅲ2(1)	学校の魅力化には、生徒が快適に活動できる環境整備が不可欠です。図書室や自習室、空調など「勉強しやすい環境」を整えるべきであり、体育館やグラウンド、特別教室などの充実も望みます。教育環境の改善が、生徒の学習意欲や学校の魅力向上につながると考えます。	2	生徒の学習意欲向上や学校の魅力化に向け、学習環境の充実は重要であると認識しております。校舎の老朽化に対し、安全性や衛生面を考慮した計画的な改修を進め、空調等の「勉強しやすい環境」の整備に努めます。また、再編に伴う校舎の新築や一体整備の機会を捉え、体育館や特別教室等の更なる充実を図り、生徒が快適に活動できる教育環境を構築して参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
20	Ⅲ2(2)	いわて留学は地域にとって重要であり、今後も多角的な支援を望む。当初案は具体性に欠けるため、支援内容を明確に示してほしい。	12	以下の下線部のとおり、加筆修正しました。 <u>いわて留学に取り組みやすい環境づくりに向けて、市町の地域連携コーディネーターの配置促進及び資質向上と地域内外との連携教化の取組、いわて留学に係る取組支援等を実施し、高校、市町村に対して県外生徒の受け入れ体制の整備等に係る伴走支援を推進します。</u>	B <sub>一部反映</sub>
21	Ⅲ2(2)	地域連携を促進するため、コーディネーター配置に向けた予算措置を求めます。その際、コーディネーターは教員の業務や教育カリキュラムの理解が必要なため、コーディネーターを支援する専門的な人材の配置等の伴走支援に協力をお願いしたい。	7	以下の下線部のとおり、加筆修正しました。 <u>「いわて留学セミナー」等を開催し、県外募集の先進事例や県内の取組事例の共有を図るとともに、地域連携コーディネーター導入講座や地域みらい留学への参画を考えている自治体への説明会等を行い、各市町村における高校魅力化及びいわて留学の取組の支援を推進します。</u>	B <sub>一部反映</sub>
22	Ⅲ3(1)	普通科進学校では大学進学以外の進路が十分に知られておらず、専門学校進学や就職希望者が少ないことが課題です。普通科でも専門学校進学や就職を現実的な選択肢として位置づけ、進路の多様化を進めるべきです。	4	普通高校に学ぶ生徒の進路は、大学、専修学校等への進学や就職等、多岐にわたっており、生徒・保護者のニーズや社会の変化に対応した学びの保障や、生徒の資質・能力の向上を図るため、教育課程の見直しや、教育活動の特色化・魅力化等の取組を進めます。	C <sub>趣旨同一</sub>
23		地元の子どもが他地域へ進学しなくても夢を実現できるよう、特色や魅力を積極的に発信すべきです。普通科は一律的な印象を持たれがちなので、体験入学の工夫などを通じて小中学生に魅力を伝え、地域に根ざした学校の姿を示すことを望みます。	1	本計画を通じて、今後も岩手の未来を担う子どもたち一人一人の夢の実現と地域に開かれ、地域に根差した魅力ある県立高校づくりを推進して参ります。	C <sub>趣旨同一</sub>
24	Ⅲ3(2)	専門高校は、必要な学科の存続や施設整備を進め、教育の質を高めてほしいです。高校は「ひとつづくりの場」であり、短期的な費用対効果ではなく長期的な視点で評価すべきです。専門高校の存在を尊重し、地域に根ざした教育環境を守っていただきたいと思えます。	9	専門高校については、産業振興の方向性や、地域が必要とする産業の人材育成を見据えた学科編制や学びの在り方について、国の動向も注視しながら検討し、取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
25	Ⅲ3(2)	少子高齢化や教員不足の中、ある程度の再編はやむを得ず、専門高校のセンター・スクール設置が必要という考えには賛同します。水産分野の学びの集約も、教育の質を上げるという点で非常によいと思います。	8	各専門分野の中心的役割を担う専門高校については、学校規模を維持することにより、職業教育のセンター・スクールとしての機能を維持します。	C <sub>趣旨同一</sub>
26	Ⅲ3(2)	専門高校からの地元就職者を増やす取り組みを検討してほしい。ものづくりの観点から、県は専門高校の魅力を高めるキャリア教育をさらに先導すべきだ。学科名も時代に合わせて変更することを考えてよいのでは。	2	学科の機能を維持できるよう検討し、地域産業との連携や人材の育成を継続します。	C <sub>趣旨同一</sub>
27	Ⅲ3(4)	「多様な学び方」を保障するため、公立高校においても通信制課程の新設を積極的に検討していただきたい。通信制課程を整備することで、生徒一人ひとりの状況に応じた柔軟な学習機会を確保できると考える。	2	通信制高校への入学者数の推移や国の動向等を注視するとともに、不登校や教育上特別な支援を必要とする生徒の増加等に伴う役割の変化や、全日制高校の再編整備の動きも考慮しながら、機能強化等に取り組みます。	C <sub>趣旨同一</sub>
28	Ⅲ3(4)	定時制課程と通信制課程の連携を進め、沿岸地域にも単位制で柔軟に授業を履修できる高校を設置していただきたい。	2	今後は、生徒のニーズの変化等を踏まえ、通信制と定時制の併置や単位併修等の連携を図ることを検討して参ります。	D <sub>参考</sub>
29	Ⅲ3(4)	工業高校定時制を維持して欲しい。高校段階で国家資格や就職につながる技術教育が受けられる利点は大きい。	1	定時制高校の入学者数の推移や国の動向等を注視するとともに、地域の産業構造やニーズを踏まえながら検討して参ります。	D <sub>参考</sub>
30	Ⅲ3(5)	花巻北高校に併設型中高一貫教育校を早期に設置していただきたいです。交通の利便性が高く広域から生徒が集まる立地を活かすことで、医学部や難関大学進学を目指す学びの場として大きな教育効果が期待できます。	6	併設型中高一貫教育については、これまでの成果や課題を踏まえ、県立中学校設置による周辺地域も含めた義務教育に与える影響や、中学校卒業予定者数に基づく見通し等を考慮のうえ、今後の在り方について検討して参ります。	D <sub>参考</sub>
31	Ⅲ3(5)	連携型中高一貫教育は、地域住民や保護者に十分理解されていない状況があります。中学生から高校まで一貫したキャリア教育を充実させ、地域に根ざした教育の在り方を検討し、地元で学び地元で活躍できる人材を育成してほしいと思います。	2	連携型中高一貫教育については、連携中学校から連携高校への進学状況や中学校卒業予定者数の推移等を考慮のうえ、今後の在り方について検討して参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
32	IV1	地域に根差した学びを提供している1学級校については、地域の安全を守る観点から維持して欲しい。	4	1学年1学級校の存在が、高校を核とした地方創生の推進に大きな役割を果たしている地域において、所在する自治体等と連携することで教育活動の充実が図られている場合、1学年1学級校の普通高校については「地域校」とし、地域における学びの機会を保障することとしています。	D <sub>参考</sub>
33	IV1	当初案の資料に前期計画中に予測される学級減等の時期として推測的に統廃合について記載がされていると、学校がなくなると誤解する可能性があり、地域や学校に悪影響を与える。資料の公表については慎重に行っていただきたい。	1	予想される学級減等の時期については、あくまでも令和7年度時点の推計による予測を示したものであり、学級減や募集停止を決定するものではないこと、また、令和8年度以降の入学志願者数の状況により変更となる可能性があることから、再編プログラム総括表とは別に示しました。	B <sub>一部反映</sub>
34	IV2(1)	平舘高校家政科学科の令和9年度からの募集停止決定は突然であり、保護者や生徒に不利益をもたらしています。体験入学の増加など入学者確保に向けた地域の努力が進行中であり、成果が出るまで猶予期間を延長すべきです。地域資源に根ざした独自の学びは貴重であり、募集停止は地域文化の消失につながる懸念があります。	14	家政科学科の入学志願者数は、令和5年度から令和7年度にかけて、9人、6人、3人であったこと、地元中学生の同校への進学が、8人、4人、2人となっており、令和7年度の進学率は1.4%であったことから、本計画(当初案)の再編プログラムにおいて募集停止することとしたものです。	D <sub>参考</sub>
35	IV2(1)	平舘高校家政科学科を家政分野のセンター・スクールとして位置付けるべきだ。盛岡農業高校人間科学科と機能整理を行い、家政の機能を平舘高校に吸収統合し、後期計画の盛岡地区高校再編と併せて進めるよう要望する。	2	家庭科については、平舘高校、花北青雲高校、大船渡東高校、宮古水産高校にそれぞれ1学科の設置であり、また、各学科に共通する教科でもあることから、学校規模を維持することにより専門分野の多様な学びの機能を維持する職業教育のセンター・スクールとして設定しないこととしたものです。	D <sub>参考</sub>
36	IV2(1)	中学生の家庭科の学びへの進学希望者がアンケートでは約1%しかいない現状を踏まえれば、平舘高校家政科学科の募集停止はやむを得ない対応だと思います。感情論ではなくデータに基づいた判断が少子化が進む中では必要だと思います。	2	今後も見込まれている生徒数減少により、更なる学校の小規模化が懸念される中、教育の質の保証、教育の機会の保障に向けた学校の配置に取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
37	IV2(1)	盛岡工業高校は現在地に残すべきです。もし移転するなら、実習施設を十分に整備し、生徒が授業中に旧校舎へ移動する必要がないよう配慮してください。	3	新たな県立高等学校再編計画後期計画において、急速に変化する社会環境に対応できるよう、新たな学びを取り入れること等も検討しながら教育内容の充実を図るとともに、施設や設備の老朽化を踏まえ、産業人材に関する幅広いニーズや最先端の工業の学びにも対応するため、盛岡南高校の統合後の校舎及び施設等を活用することとしたものです。令和10年度に学科の改編を行ったうえで令和12年度を目途に教育環境を整備して参ります。	D <sub>参考</sub>
38	IV2(1)	入試倍率が1倍以下の盛岡地区の普通科高校の定員を減らし、学級減を前倒しで実施することで他地区への影響を緩和すべきだ。	9	後期計画期間中の方向性として、今後、盛岡地区においても、多くの学校で定員割れすることが予想され、学科改編、学系又は系列の見直し及び機能の維持が困難となった学校の統合等の検討を想定しています。	D <sub>参考</sub>
39	IV2(1)	盛岡第二高校は共学でありながら実質的に女子校化している状況があります。男子が受検・入学しやすい環境に改善し、男女ともに学びやすい体制を整えていただきたい。	1	普通高校に学ぶ生徒の進路は、多岐にわたっており、生徒・保護者のニーズや社会の変化に対応した学びの保障や、生徒の資質・能力の向上を図るため、教育課程の見直しや、教育活動の特色化・魅力化等の取組を進めて参ります。	D <sub>参考</sub>
40	IV2(1)	葛巻町が葛巻高校の支援として実施している山村留学制度は寄宿舍整備など体制が充実し、地域の就職や関係人口増加に成果を上げています。県教育委員会には今後も県外募集について支援を続けていただきたいです。	4	いわて留学に取り組みやすい環境づくりに向けて、市町村の地域連携コーディネーターの配置促進及び資質向上と地域内外との連携強化の取組、いわて留学に関する取組支援等を実施し、高校、市町村に対して県外生徒の受入れ体制の整備等に係る伴走支援を推進して参ります。	C <sub>趣旨同一</sub>
41	IV2(1)	紫波総合高校は盛岡地区唯一の総合学科高校であり、地域と連携した特色化・魅力化に取り組んでほしい。魅力発信や系列構成の見直しを進め、校名変更も含めた学校づくりを期待します。	2	総合学科高校は、地域の産業構造やニーズを踏まえた系列編制や学びの内容となるよう、国の動向も注視しながら、系列の見直しや学びの在り方等について検討するとともに、今後の在り方について、前期計画期間中に検証を行い、方向性を検討して参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
42	IV2(1)	雫石高校では、入学者39名に対し1クラスを2コースに分けて少人数指導を充実させており、人との関わりに不安がある生徒も入学を選択するなど、生徒の期待に応える指導が行われていることを評価しています。	1	多くの普通高校に教育上特別な支援を必要とする生徒が在籍していることから、高校と特別支援学校との連携を深める等、これらの生徒への対応や、よりインクルーシブな教育環境の在り方について検討して参ります。	C <sub>趣旨同一</sub>
43	IV2(1)	盛岡農業高校を含む専門高校について、専門性のある人材育成の観点から、一定の学力を有する生徒に対し、国公立大学への指定校推薦枠を拡充するよう要望します。	1	「国公立大学への指定校推薦枠」につきましては、制度上、国立大学には指定校推薦という枠組みが設けられていませんが、専門高校で培った専門的な知識や技能を活かし、国公立大学を含む多様な進路に挑戦できるように支援して参ります。	E <sub>対応困難</sub>
44	IV2(1)	沼宮内高校の存続については、地元住民が本当に存続を望んでいるのか、その本音をしっかり把握すべきです。沼宮内高校は盛岡方面にも一戸町や二戸市にも通いやすい場所に位置しており、交通の利便性から存続する意味がないのではないかとこの疑問を呈します。	1	1学年1学級校の存在が、高校を核とした地方創生の推進に大きな役割を果たしている地域において、所在する自治体等と連携することで教育活動の充実が図られている場合、1学年1学級校の普通高校については「地域校」とし、地域における学びの機会を保障することとしています。	D <sub>参考</sub>
45	IV2(2)	花北青雲高校情報工学科は、多様な進路に対応し地域産業へ人材を供給してきた重要な学科です。募集停止は男子生徒の減少や部活動縮小につながり、再編計画の理念にも反します。地域に根ざした教育を守るため、募集停止方針を撤回し存続を強く要望します。	17	全県的な人口減を見据え、内陸部における工業の学びの配置バランスを考慮し、専門高校への工業の学びの集約を実施することとし、令和10年度に花北青雲高校の情報工学(工業)科を募集停止としたものです。花北青雲高校については、自宅から通学効的な範囲に工業の専門高校(盛岡工業、黒沢尻工業)があることから集約することとしたものです。	D <sub>参考</sub>
46	IV2(2)	黒沢尻工業高校に新学科が設置された直後に花北青雲高校情報工学科を募集停止するのは拙速であり、納得できる再編ではありません。まずは黒沢尻工業高校の新設学科の成果を見極め、その状況を踏まえて判断すべきです。県南工業高校の計画も不透明な中で、単なる数合わせによる募集停止は無理があり、再考を強く求めます。	9	花北青雲高校の情報工学科の募集停止については、全県的な人口減を見据え、内陸部における工業の学びの配置バランスを考慮し、工業の学びを集約することを目的としているため、黒沢尻工業高校の新設学科の評価を踏まえて判断するものではないと考えております。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
47	IV2(2)	遠野高校と遠野緑峰高校の統合後に導入予定の実習移動型校舎制については、これまでと同様に地域に根差した農業の学びができることを期待する。あわせて、両校間の距離や通学負担、安全面を踏まえ、生徒の移動に係る支援を検討することを強く求めます。	8	以下の下線部のとおり、加筆修正しました。 <u>統合に当たっては、両校の校舎及び施設等を有効に活用する実習移動型の校舎制の形態とし、生徒の移動に係る支援について検討します。</u>	A <sub>全部反映</sub>
48	IV2(2)	大迫高校は神楽の継承やブドウ栽培、地域イベント参加など地域に根ざした特色を持ち、生徒を支える拠点となっています。学級数や生徒数だけでなく地域事情や教育内容を踏まえ、今後も1学級校として維持し、その役割を担い続けていただきたいです。	6	1学年1学級校の存在が、高校を核とした地方創生の推進に大きな役割を果たしている地域において、所在する自治体等と連携することで教育活動の充実が図られている場合、1学年1学級校の普通高校については「地域校」とし、地域における学びの機会を保障することとしています。地域校とする場合においても、高校における生徒の発達段階を考えると、グループ活動等の協働的な学び、多様な意見や価値観を学ぶ機会、学校行事等の多様な教育活動の展開が必要であり、高校としての教育の質を維持していくための集団として、少なくとも1学年20人を超える人数が必要となります。	D <sub>参考</sub>
49	IV2(2)	黒沢尻工業高校の令和9年度からの半導体関連学科への再編は、人手不足解消や地域振興につながる点で評価できます。一方で、工業教育が偏らないよう、キャリア教育の充実に向けて地元企業等との連携を一層進めていただきたいです。	4	地域社会や地元企業等と連携・協働し、高等学校の特色化・魅力化を進めながら、地域への理解を深め、地域や地域産業を担う人材の育成に向けた教育環境の構築に取り組んで参ります。	C <sub>趣旨同一</sub>
50	IV2(2)	西和賀高校は町と高校が協働し、商工会との連携など地域ぐるみの魅力化に取り組み、2学級となるなど活性化を進めています。町が高校を支えるモデル校として今後も大切にしていきたいです。JR北上線の存続にも関わるため、「いわて留学」など県外募集について、県教育委員会の伴走支援を強く要望します。	3	いわて留学に取り組みやすい環境づくりに向けて、市町村の地域連携コーディネーターの配置促進及び資質向上と地域内外との連携強化の取組、いわて留学に関する取組支援等を実施し、高校、市町村に対して県外生徒の受入れ体制の整備等に係る伴走支援を推進して参ります。	C <sub>趣旨同一</sub>
51	IV2(2)	花巻北高校や黒沢尻北高校はかつてのような学校ではなく、入ろうと思えば誰でも入れる学校になっているという現状を鑑み、進学校の定員を削ることで、教育の質の維持を図ることも必要ではないか。	3	大学進学率の向上や、県政課題等に対応した専門的知識を持つ人材の育成に向けた学力向上やキャリア形成支援に資する教育環境の構築に取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
52	IV2(2)	中部地区や釜石市の高校の学科改編や学級減は、遠野市の中学生の進路決定に大きく関わります。様々な状況によって学級減となる場合は、生徒の経済状況や家庭の状況を考慮して進めていただきたい。	1	広い県土と多くの中山間地を抱える本県の地理的状況を踏まえ、生徒の教育の機会の保障に向けた学校の配置に取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>
53	IV2(2)	花北青雲高校と花巻農業高校は校舎が古く、一部教科が重複しているため、部活動や学校行事において連携・統合を行うことを提案します。	1	地区によっては、今後、生徒数の減少に伴い配置できる学校数や学科等が限定される可能性があることから、遠隔教育・学校間連携等の取組により生徒にとってより良い教育環境を整備することに取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>
54	IV2(3)	岩谷堂高校は全国初の総合学科高校の1つであり、6系列を揃えていることが大きな魅力です。幅広い選択肢を提供することで生徒の進路検討を支えてきたため、系列を減らすことは入学希望者の減少につながり、学校の活性化にも逆行します。6系列の維持を強く要望します。	24	系列の選択の募集停止及び系列の見直しは、内陸部全体における学びの配置バランスを考慮し、一定程度の学校規模を維持することで、急速に変化する社会環境に対応できる教育の質の充実を図るための措置です。今回の系列見直しは、教育の質の保証、教育の機会の保障を基本方針として、総合学科としての役割を維持し、生徒の資質・能力を最大限に伸長する質の高い教育を実践するための取組となります。	D <sub>参考</sub>
55	IV2(3)	金ヶ崎高校の統合計画は唐突であり再考を求めます。少人数ならではのきめ細かい指導が可能で、生徒の選択肢を奪うべきではありません。高校存続は地域の基盤として重要であり、募集停止の方針は理解できないため撤回を強く要望します。	15	令和7年度までの入学志願者の状況や町内中学校からの進学率等から見ても、現在の学校規模を維持することは困難であり、公共交通機関を利用し周辺高校への通学が可能である地域であると判断したものです。	D <sub>参考</sub>
56	IV2(3)	杜陵高校奥州校の金ヶ崎高校校舎への移転・集約は通信制の生徒にとって有益であり賛成します。一方、定時制夜間部の通学環境に不安があり、歩道整備や防犯対策、交通環境の改善を期待します。	4	定時制、通信制高校の機能強化や環境整備に努め、生徒一人一人が安心して学びを継続できるよう取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>
57	IV2(3)	水沢高校は現在240人の募集定員だが、入試倍率も低く、入学が容易な高校になっている。定員を減らし、レベルを上げるべきではないか。	3	大学進学率の向上や、県政課題等に対応した専門的知識を持つ人材の育成に向けた学力向上やキャリア形成支援に資する教育環境の構築に取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
58	IV2(3)	大東高校の情報ビジネス科について、地元中学校からの入学者を増やす取組を進めたいと考えているため、そのための活動期間を確保するため、募集停止について猶予をいただきたいと要望します。	2	以下の下線部のとおり、加筆修正しました。 大東高校については、令和7年度までの入学志願者の状況等を踏まえて、令和11年度に情報ビジネス(商業)科を募集停止とします。 なお、令和8年度入試以降の入学志願者の状況や地域の実情等を注視していきます。	B <sub>一部反映</sub>
59	IV2(4)	大船渡東高校食物文化科の募集停止案に強く反対します。当学科は調理師免許取得が可能で、地域産業や食文化に直結した活動を展開しており、地域に不可欠な存在です。宮古水産高校への集約は通学や生活面で現実的でなく、多くの生徒の進路を奪う恐れがあります。充実した施設を調理師養成の場として活用し、存続を強く要望します。	44	以下の下線部のとおり、加筆修正しました。 大船渡東高校については、調理師養成施設の学びの配置バランスを考慮して、食物文化(家庭)科の調理師養成施設を除く家庭の学びを農芸科学(農業)科の中にコース等として維持した上で、令和12年度に食物文化(家庭)科を募集停止とします。 なお、農芸科学(農業)科については、教育内容の変更に併せ、学科名の変更を検討します。	B <sub>一部反映</sub>
60	IV2(4)	高田高校海洋システム科の募集停止と宮古水産高校への集約には強く反対します。通学困難により生徒の進路選択が制限され、地域の水産を支える人材育成にも支障をきたします。地域に根ざした教育を継続するため、校舎を活用し海洋システム科の存続を強く要望します。	17	全県における水産の学びについて、これまでの入学志願者の状況や今後の教員配置を踏まえたうえで、広域での再編が必要と判断し、宮古水産に集約し、水産の学びの機能の重点化を図ることとしていることから、海洋システム科を募集停止としたものです。	D <sub>参考</sub>
61	IV2(4)	沿岸部の人口減少や少子化には東日本大震災の影響が大きく関わっている。当初案に震災の影響を考慮する文言がないのは遺憾である。人材が沿岸地域から失われれば復興の取組が根本から崩れる恐れがある。現在の状況だけでなく、復興を見据えた検討を求める。	7	以下の下線部のとおり、加筆修正しました。 東日本大震災津波の教訓を踏まえ、「いわての復興教育を推進するとともに、生徒が「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を総合的に兼ね備え、将来に夢や希望を持ち、未来の岩手を持続可能なものに創造していく「生きる力」を身に付けることができる学びの実現を目指し、本計画の着実な推進に努めて参ります。	A <sub>全部反映</sub>
62	IV2(4)	気仙地区の高校を維持するためには、専門高校ではなく普通高校の定員減から始めるべきです。特に大船渡高校の定員を減らし入試競争率を高めることで進学校としての本来の姿を取り戻すことが重要です。	6	大学進学率の向上や、県政課題等に対応した専門的知識を持つ人材の育成に向けた学力向上やキャリア形成支援に資する教育環境の構築に取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
63	IV2(4)	医系コースや国際交流などの魅力的な取り組みは内陸部の高校のみで、沿岸部では要望しても実現していない。沿岸部でも盛岡に行かず医学部進学を目指せる医系コースや、海外交流を活かした国際コースの設置を検討し、学力向上や人口減対策につながる魅力化を強く要望する。	3	医系進学コース等の設置については、長期ビジョンを踏まえ、医学部医学科等への進学を見据えたカリキュラムの見直し、国からの教員加算を活用した単位制等の導入、地域の児童生徒の志望動向や保護者、地域のニーズ、地域の中学校卒業予定者数の推移等、様々な観点から設置校も含め、検討を進めて参ります。	D <sub>参考</sub>
64	IV2(4)	専門教科の教員不足を理由に集約することは疑問です。県教委は、調理師など資格保持者を優遇し、毎年採用試験を実施することで専門教員確保に積極的に取り組むべきです。調理師養成は遠隔授業で効率化が可能です。少人数であっても学びの質を高め、未来を担う人材を育てることを重視すべきです。	2	厚生労働省の通知においては、専修学校に設置されている調理師養成施設に関して遠隔授業の取扱いが示されておりますが、高等学校においては同様の通知はなく、現場での直接指導を前提とした教育が必要であると認識しております。	D <sub>参考</sub>
65	IV2(4)	釜石市でも医系コースの設置を要望してきたが、現状は盛岡1校のみである。沿岸部にも医系コースを設置してほしい。	3	医系進学コース等の設置については、長期ビジョンを踏まえ、医学部医学科等への進学を見据えたカリキュラムの見直し、国からの教員加算を活用した単位制等の導入、地域の児童生徒の志望動向や保護者、地域のニーズ、地域の中学校卒業予定者数の推移等、様々な観点から設置校も含め、検討を進めて参ります。	D <sub>参考</sub>
66	IV2(4)	大船渡東高校は津波浸水区域外にあり、インターも近く災害に強い学校である。東日本大震災の際には、生徒が職員のためにサンドイッチを作り、帰宅困難な生徒に食事を提供した事例もあり、災害時の炊き出し対応能力も評価すべきだ。	1	東日本大震災津波の教訓を踏まえ、「いわての復興教育」の取組を推進するとともに、生徒が「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を総合的に兼ね備え、将来に夢や希望を持ち、未来の岩手を持続可能なものに創造していく「生きる力」を身に付けることができる学びの実現を目指し、本計画の着実な推進に努めて参ります。	D <sub>参考</sub>
67	IV2(4)	大船渡高校については、BRTでアクセスできるよう、バス停またはスクールバスの設置や、給食またはハローランチの注文を可能にすることを要望します。	2	地域社会や地元企業等と連携・協働し、高等学校の特色化・魅力化を進めながら、地域への理解を深め、地域や地域産業を担う人材の育成に向けた教育環境の構築に取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
68	IV2(5)	宮古水産高校への集約は、人口減少下で教育や設備を集中し、宿泊施設整備によって教育の質向上や水産後継者育成につながる点を評価する。	6	水産の学びを確保できるよう、学びの配置バランスを考慮するとともに、他の学科との併置校への再編等、教育環境の整備の在り方について検討して参ります。	D <sub>参考</sub>
69	IV2(5)	宮古水産高校では「いわて留学」により遠方からの生徒が増えているが、受入下宿は数軒しかなくすぐに限界となる。久慈地区や沿岸南部地区など遠方の生徒が安心して学べるよう、寮の整備が必須である。	7	以下の下線部のとおり、加筆修正しました。 宮古水産高校については、水産及び調理師養成施設の学びの配置バランスを考慮して、令和10年度から令和12年度にかけて県立高校の水産及び調理師養成施設の学びを集約し、機能の重点化を図ります。 なお、学びの集約に当たっては、志願者の動向等を踏まえて寮の整備について検討します。	B <sub>一部反映</sub>
70	IV2(5)	全国的に水産高校で専門教員が不足している。宮古水産高校に水産教育を集約するなら、学科数を増やし有能な教員を配置し、各地から集まる生徒を受け入れる環境の保証が不可欠である。若手専門教員が他県へ流出することを懸念しており、転勤サイクルを見直し、地域に根差した教員の定着を図る工夫を求める。	2	全国的な動向と同様に教員志願者が減少傾向にあり、県教育委員会では、県内外の大学の訪問、オンライン説明会を実施するなどして、県が求める教員像、それから教員の仕事の魅力の発信に引き続き努めて参ります。	D <sub>参考</sub>
71	IV2(5)	宮古商工高校と宮古水産高校の校舎集約は令和9年度完成予定だが、物価高騰による入札不調が懸念されている。工期を守り、充実した学びの環境を整えてほしい。宮古市を含む沿岸部は内陸より景況が厳しいため、入札要件を緩和し、地元業者を優先して活用してほしい。	1	引き続き、早期の供用開始に向けて、取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>
72	IV2(5)	宮古水産高校の卒業生の進路は遠洋漁業や客船勤務、海洋短大進学など多様であり、漁師になる生徒は少数である。集約にあたっては教育内容を特化・充実させ、進路に応じた多様な学びを選択できる学校を目指すべきだ。今後の水産業に重要となる養殖科の創設を具体的に提案する。	1	水産業の動向やニーズを踏まえながら、地域や生徒の実態に合わせた教育課程の見直しや、学校や学科を超えた連携、地域等との連携・協働等、入学者確保に向けた方策を検討し、取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
73	IV2(5)	食品・調理系は水産と関連はあるが船舶系とは別分野である。希望者は女子が多く、本人や家族は長距離通学や寄宿生活を安全面から望んでいないため、集約による影響を十分に考慮すべきだ。名称についても、水産を連想させつつ統合によって強化された印象を与えるものを検討してほしい。	1	将来的にも水産及び調理師養成の学びを確保できるよう、より広域での再編も視野に入れ、学びの配置バランスを考慮するとともに、他の学科との併置校への再編等、教育環境の整備の在り方について検討して参ります。	D <sub>参考</sub>
74	IV2(5)	山田高校は沿岸被災地の人口減少という特殊事情を踏まえ、地域の人材育成の場として存続が必要である。町や生徒の地域貢献の実績を考慮した柔軟な再編計画を求める。入学志願者数が20人以下の場合の募集停止については「機械的に判断しない」という説明が曖昧であり、基準を明確に示してほしい。宮古高校の学級減により山田高校の志願者数が増える可能性もあるため、その影響を検討し、宮古地区内の募集定員数を早急に見直すことを要望する。	4	生徒数の減少等に対応し、各高校における特色ある学びの機能を可能な限り維持しながら規則及び基準に基づき学級数調整を行います。また、地域校においては、入学志願者の状況等を踏まえながら、存続について検討して参ります。	D <sub>参考</sub>
75	IV2(5)	岩泉高校は、地域に根ざした教育活動や特色ある取組を通じて町に活力をもたらし、交通事情や地域の将来を考えても不可欠な存在である。小規模校ならではの支援体制を充実させつつ、県と町が協力して学びの環境を整え、これらの活動を継続・発展させるためにも、岩泉高校の存続を強く求める。	5	生徒数の減少等に対応し、各高校における特色ある学びの機能を可能な限り維持しながら規則及び基準に基づき学級数調整を行います。地域社会や地元企業等と連携・協働し、高等学校の特色化・魅力化を進めながら、地域への理解を深め、地域や地域産業を担う人材の育成に向けた教育環境の構築に取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>
76	IV2(5)	宮古北高校は、中学時代の経験にとらわれず高校から新たなスタートができる学校であり、特別な支援を必要とする生徒にも進路指導を含め丁寧に対応している。募集停止となった場合、その受け皿がどうなるのか不安である。	4	1学年1学級校の存在が、高校を核とした地方創生の推進に大きな役割を果たしている地域において、所在する自治体等と連携することで教育活動の充実が図られている場合、1学年1学級校の普通高校については「地域校」とし、地域における学びの機会を保障します。地域校とする場合においても、高校における生徒の発達段階を考えると、グループ活動等の協働的な学び、多様な意見や価値観を学ぶ機会、学校行事等の多様な教育活動の展開が必要であり、高校としての教育の質を維持していくための集団として、少なくとも1学年20人を超える人数が必要となります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
77	IV2(5)	宮古地区の高校がどのような教育活動を行っているかを知ってもらい、県内に進学してもらえよう、高校説明会を一度だけでなく複数回設けるなど、魅力発信を強化すべき。	1	生徒の学習意欲を喚起し、一人一人の可能性や能力を最大限に伸ばすため、高校の特色化・魅力化を推進し、各高校によるスクール・ポリシーを踏まえた教育活動の充実に取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>
78	IV2(5)	宮古高校の校舎は50年を経過し、大分古くなっています。体育館の改修計画も出ているようですが、校舎、設備の老朽化について配慮を要望します。	1	生徒が安心して学べる環境を整えることは重要であると認識しており、今後とも各高校の特色化・魅力化を推進し、学びの環境整備に引き続き取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>
79	IV2(6)	久慈翔北高校の海洋科学系列の募集停止と食物系列の調理師養成施設の廃止計画について、撤回を強く要望する。これらの学科はユニ・アワビなどの磯根漁業や魚類養殖漁業など地域特性に特化した専門コースであり、基幹産業を支える人材育成に不可欠である。募集停止は子どもたちの定住や県北地域の産業振興に悪影響を及ぼす。	9	久慈市周辺の中学校卒業生数は減少しており、入学者の推計から見ても、現在の学校規模や学科を維持することは難しく、総合学科の志願者の数から1学級減が必要であり、学級減に伴い4学級で7系列を維持することは困難であることから、系列を見直すこととしたものです。	D <sub>参考</sub>
80	IV2(6)	久慈翔北高校の水産・家庭分野を宮古水産高校へ集約する案は、通学困難や保護者・生徒の負担増を招き、進学の実機を狭める恐れがある。宮古水産高校までの往復4時間の通学は大きな負担であり、適正とは言い難い。	6	県立高校の水産及び調理師養成施設の学びを集約し、機能の重点化を図るものであり、沿岸部の学びの配置バランスの観点から、海洋科学系列の選択の募集を停止及び調理師養成施設を廃止することとしたものです。なお、学びの集約に当たっては、志願者の同行を踏まえて、寮の整備を検討して参ります。	D <sub>参考</sub>
81	IV2(6)	福岡高校は県北地域の進学拠点校として重要な役割を担っており、将来の地域再編を見据えても、その機能を維持・強化する必要がある。進学・就職の双方に対応できる教育体制を整えつつ、教員配置を含む学習環境を充実させ、早急に拠点校としての体制整備を進めることを求める。	13	大学進学率の向上や、県政課題等に対応した専門的知識を持つ人材の育成に向けた学力向上やキャリア形成支援に資する教育環境の構築に取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>
82	IV2(6)	福岡高校については、築58年を経て老朽化が顕著な校舎の全面改築を最優先事項として進めていただきたい。	6	これまで屋上防水や暖房配管などの改修や修繕を行ってきたところですが、校舎全体の老朽化が顕著であることから、地域における将来的な生徒数の減少や多様化する教育ニーズ、県全体の公共施設マネジメントの方向性を踏まえながら改築等を検討して参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
83	IV2(6)	軽米高校は地域の実情に合った教育機会を確保し、生徒に寄り添う多様な学びを維持するためにも、教員体制や募集環境が損なわれる学級減は避けるべきである。町の支援や中高一貫教育の検討状況も踏まえ、地域の進路保障と学校の魅力向上のために、軽米高校を2学級で維持することを強く求める。	18	生徒数の減少等に対応し、各高校における特色ある学びの機能を可能な限り維持しながら規則に基づき学級数調整を行います。	D <sub>参考</sub>
84	IV2(6)	大野高校は地域を支える教育拠点として重要であり、生徒の進路保障や地域の活力維持のためにも存続が不可欠である。志願者確保の取組や町の支援、交通課題への対応を踏まえ、地域の学びの場を守るために大野高校の存続を強く求める。	16	1学年1学級校の存在が、高校を核とした地方創生の推進に大きな役割を果たしている地域において、所在する自治体等と連携することで教育活動の充実が図られている場合、1学年1学級校の普通高校については「地域校」とし、地域における学びの機会を保障することとしています。地域校とする場合においても、高校における生徒の発達段階を考えると、グループ活動等の協働的な学び、多様な意見や価値観を学ぶ機会、学校行事等の多様な教育活動の展開が必要であり、高校としての教育の質を維持していくための集団として、少なくとも1学年20人を超える人数が必要となります。	D <sub>参考</sub>
85	IV2(6)	伊保内高校は、地域の子どもたちの学びを支える重要な教育拠点であり、進路選択のセーフティネットとしても不可欠である。地域振興の観点からもその役割は大きく、いわて留学の受け入れ枠拡大など支援策を講じつつ、伊保内高校の存続を強く求める。	4	1学年1学級校の存在が、高校を核とした地方創生の推進に大きな役割を果たしている地域において、所在する自治体等と連携することで教育活動の充実が図られている場合、1学年1学級校の普通高校については「地域校」とし、地域における学びの機会を保障することとしています。地域校とする場合においても、高校における生徒の発達段階を考えると、グループ活動等の協働的な学び、多様な意見や価値観を学ぶ機会、学校行事等の多様な教育活動の展開が必要であり、高校としての教育の質を維持していくための集団として、少なくとも1学年20人を超える人数が必要となります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
86	IV2(6)	北桜高校は統合したばかりなのに学級減の見込みが示されており疑問を感じる。統合は二戸市に工業の学びを残すために地元が苦渋の選択をした経緯があり、学級減の判断は生徒数だけを見ているのではないかという懸念がある。	3	予想される学級減等の時期については、あくまでも令和7年度時点の推計による予測を示したものであり、学級減や募集停止を決定するものではないこと、また、令和8年度以降の入学志願者数の状況により変更となる可能性があることから、再編プログラム総括表とは別に示しました。	B <sub>一部反映</sub>
87	IV2(6)	北桜高校の電気情報システム科は定員割れが大きく、関連企業への就職も少ないため、地域産業に即した教育内容の見直しが必要である。令和10年度に学級減となる場合、現在の校舎制を1つに集約する考えがあるのか懸念される。	1	生徒数の減少等に対応し、各高校における特色ある学びの機能を可能な限り維持しながら規則及び基準に基づき学級数調整を行います。	D <sub>参考</sub>
88	IV2(6)	種市高校の海洋開発科は、潜水技術の学びの拠点としての機能維持が示されており、全国の海洋土木業界からも強い存続要望があります。	3	後期計画期間中の方向性として、種市高校の海洋開発科については、県立高校の潜水技術の学びの拠点として、分校化等を検討しながら、その機能を維持することを想定しています。	C <sub>趣旨同一</sub>
89	IV2(6)	種市高校は各科の生徒数が10名程度で、潜水士資格の合格率も100%ではないため、海洋開発科だけで存続させることに疑問がある。久慈翔北高校の水産系や工業科の専攻科として高校卒業後に専門的に学ぶ形を検討すべきだ。	2	後期計画期間中の方向性として、種市高校の海洋開発科については、県立高校の潜水技術の学びの拠点として、分校化等を検討しながら、その機能を維持することを想定しています。	D <sub>参考</sub>
90	IV2(6)	地元の祭りなどの催事は高校生が中心となって地域を支えている現状を理解してほしい。また、県北・沿岸部と内陸部では経済状況が異なり、経済的理由から地元高校にしか進学できない子どももいるため、格差を踏まえた再編を要望する。	3	地域社会や地元企業等と連携・協働し、高等学校の特色化・魅力化を進めながら、地域への理解を深め、地域や地域産業を担う人材の育成に向けた教育環境の構築に取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>
91	その他 1	教育は岩手の未来を左右する重要課題であり、単なる統廃合ではなく人材育成の本質を踏まえた方針が必要だ。少子化対応に偏らず、多様性を尊重した魅力ある教育を目指し、機会の保障だけでなく質の保証も具体的に示すべきである。	9	岩手の未来を担う「持続可能な社会の創り手」の育成に向け、単なる統廃合ではない「5つの柱」に基づく教育環境の構築を進めます。インクルーシブな教育環境や生徒を主語とした進路実現を重視し、可能性を伸ばす魅力ある学校づくりを推進します。ICTや遠隔教育の拡充により、地域に関わらず「教育の機会保障」と「質の保証」を両立させ、将来の生徒も充実した学びを享受できる環境を整備して参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
92	その他 1	自治体から学校がなくなることは若者流出や少子化につながるため、地域に学校を残すべきだ。高校の存続はまちづくりと直結しており、地元高校との連携による地域活性化を進めるべきだ。	7	本計画では「地域や地域産業を担う人づくり」を柱の一つに据え、自治体と連携した教育活動が展開されている1学級校を「地域校」と位置づけ、学びの機会を保障することとしています。また、魅力化推進事業等を通じ、生徒が地域課題の解決に参画する学習を充実させ、学校と地域が協働した持続可能なまちづくりに努めて参ります。	D <sub>参考</sub>
93	その他 1	再編計画は県立だけでなく市立・私立とも協議し、足並みを揃えることが望ましい。	7	岩手県私学協会と定期的に会議の場を設け、県立高校の再編の取組について説明し理解を求めています。また、地域検討会議には盛岡市の代表者も参加しており、今後においても盛岡地区の高校の在り方について、引き続き意見交換を図って参ります。	D <sub>参考</sub>
94	その他 1	生徒数減少で学級減や統合があっても教員を加配し、誰もが学びたい高校へ進学できる環境を整えるべきです。教育格差を小さくし、柔軟に進路選択ややり直しができる学校を望みます。	4	教職員定数の改善を国に要望しつつ、学校の状況に応じた適切な配置に努めます。ICTや遠隔教育の推進により、居住地域に関わらず教育の機会と質を保障し、教育格差の解消を図って参ります。	D <sub>参考</sub>
95	その他 1	スーパーキッズ事業などを通じて育成した子どもたちが県外へ進学、流出してしまう現状があります。再編計画が固まった段階で、各高校が持つ魅力を積極的に発信してほしい。	1	各校の「スクール・ポリシー」に基づく特色化・魅力化を推進します。魅力の発信については、ウェブ配信サイト「note」等を活用し、中学生や保護者が各校の特色を深く理解し志望できるよう、積極的な情報発信に努めて参ります。	D <sub>参考</sub>
96	その他 2	第3期再編計画の最終案を令和8年3月に策定するというスケジュールは、あまりにも短期間であり、唐突かつ拙速な印象を受けます。これほど大規模な再編には、最低でも3年程度の時間をかけて丁寧に進めるべきであり、十分な検討期間の確保を強く求めます。	2	本計画は当初案公表から策定まで、前計画並みの検討期間を設けております。これまで8会場で3回の地域検討会議、7会場で2回の意見交換会、出前説明会等を重ね、また、今回新たに子どもからの意見聴取を実施し、丁寧に説明を行いながら広く意見を伺って参りました。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見 件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
97	その他 2	学校の廃止や統合を進める際には、保護者や地域住民に対して時間をかけた丁寧な説明と慎重な議論を行い、合意形成を経た上で進めていただきたいと思います。地域に根ざした学校の在り方を尊重し、納得のいくプロセスを重視してください。	1	統合等に当たっては検討会議等を設置し、地域代表の意見を聴くなど納得感のあるプロセスを重視します。教育環境の確保と地域の実情を踏まえ、丁寧な対応に努めて参ります。	D <sub>参考</sub>
98	その他 3	子育て世代の保護者が参加しやすいよう、地域ごとの開催や土日開催、時間帯の工夫など、柔軟な対応を検討していただきたいと思います。より多くの住民が意見を述べられる環境づくりを望みます。	1	より多くの県民から意見を伺うため、意見交換会は参加しやすい夕方に設定しているほか、PTA等の要望に応じた出前説明会を柔軟に開催しております。次期計画の策定に当たっては、教育事務所等を通じて保護者へ直接周知を行うなど広報を工夫するとともに、地域の実情に応じた開催場所や時間帯、土日開催の検討など、子育て世代を含む多くの皆様が参加しやすい環境づくりに努めて参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
99	その他 3	いわて県民計画の内容は、すべての教職員が理解していることが重要です。校長会議などの場を活用し、計画の趣旨や方向性について丁寧な周知をお願いいたします。	1	計画の趣旨や方向性については、校長会議や各種研修等の機会を捉え、全教職員への丁寧な周知に努めて参ります。また、各校のスクール・ポリシーを通じ、教職員一人一人が計画の目的を理解し、岩手の未来を担う人材育成や地域活性化に資する教育活動を一体となって推進して参ります。	D <sub>参考</sub>
100	その他 3	新聞やテレビの報道によっては、高校の印象が誤って伝わり、生徒や保護者が進路選択に不安を感じるケースがあります。情報発信にあたっては、誤解を招かないよう十分な配慮をお願いいたします。	2	予想される学級減等の時期が決定事項であるとの誤解を招かないよう、修正案では再編プログラムとは別に表記するなどの配慮を行いました。今後も生徒や保護者の不安を招かないよう、丁寧な情報提供に取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>
101	その他 4	高校における特別支援教育の理解と実践を進め、特別支援コーディネーターを早急に配置すべきだ。生徒一人ひとりに寄り添った指導を通じて共生社会を実現し、社会に貢献する人材を育成することが重要である。特別支援学級のない普通高校でも支援ニーズが高まっており、特別支援学校の就労支援ノウハウを活用することが望まれる。	6	支援ニーズの増加に対し、特別支援教育支援員の配置や指導主事の派遣による教員の実践力向上を図っております。今後も特別支援学校との連携を一層深めるなど、インクルーシブな教育環境の構築を通じ、生徒一人一人の可能性を伸ばす教育の充実に努めて参ります。	D <sub>参考</sub>
102	その他 4	教員数減少に対応するため、得意分野を生かした分業体制の構築と教職の魅力発信による人材確保が必要だ。校長がリーダーシップを発揮できる環境づくりと、魅力ある高校の実現には十分な教員配置が不可欠である。地域校の特色化による教員負担増にも配慮し、専門教科の教員確保に向けて特別選考枠や社会人選考枠の活用を求める。	5	教員の確保に向け、学生への魅力発信や社会人特別選考等の活用により、専門的知識を持つ人材の確保に努めます。状況に応じた適切な配置を図りつつ、配置基準の改善を国に要望し続けて参ります。また、地域連携コーディネーター等の活用により教員の負担軽減や分業を図り、校長のマネジメントのもと、特色ある魅力的な学校運営を推進して参ります。	D <sub>参考</sub>
103	その他 4	特定の部活動存続を理由に学校を残すのではなく、生徒数減少には選択と集中で対応すべきだ。部活動の地域移行を進め、優れた指導者を活用し、地域や学校の特色を生かしたスポーツ環境を整えることが重要である。県外進学が増えている現状を踏まえ、指導者配置を重視し、県内でもスポーツに取り組める高校環境を充実させてほしい。	5	生徒の多様な選択肢と活動環境を確保するため、学校規模のメリット等を活かし、指導体制の充実に努めて参ります。部活動については、地域移行の動向を踏まえ、県内で活動を継続できる持続可能な体制の構築に取り組んで参ります。	D <sub>参考</sub>

番号	意見箇所	意見	類似意見 件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
104	その他 4	高校再編に合わせて入試制度の見直しが必要であり、中学生が高校生活や費用面など具体的な情報を得られる環境を整えるべきです。	8	入試制度は、令和7年度入試から検査日程を3月に統合し、志願先をじっくり検討できるよう改善したところです。学区制の在り方も、特定の高校への集中や地域格差を考慮し、慎重に検討いたします。費用面でも、奨学給付金等の支援制度を丁寧に周知し、安心して進路を選択できる環境を整えて参ります。	D <sub>参考</sub>
105	その他 4	統合等を機にトイレの洋式化やエアコン整備など環境改善を行い、廃校は収益化に向けた二次活用も検討すべきです。	8	学校施設の老朽化対策については、再編を機にトイレ改修等を含め安全・衛生的な教育環境の整備を計画的に進めて参ります。廃校の活用についても、既存校舎の有効活用を基本に、地域の実情や他県の事例等も参考にしながら、関係法令に基づき二次活用などの在り方を検討して参ります。	D <sub>参考</sub>
合計			659		

備考1 「類似意見件数」欄については、類似の意見をまとめて公表するときに当該類似の意見の件数の記入に用いるものとし、それ以外の場合は削除するものとします。

2 「決定への反映状況」欄には、次に掲げる区分を記載するものとします。

区 分	内 容
A (全部反映)	意見の内容の全部を反映し、計画等の案を修正したもの
B (一部反映)	意見の内容の一部を反映し、計画等の案を修正したもの
C (趣旨同一)	意見と計画等の案の趣旨が同一であると考えられるもの
D (参考)	計画等の案を修正しないが、施策等の実施段階で参考とするもの
E (対応困難)	A・B・Dの対応のいずれも困難であると考えられるもの
F (その他)	その他のもの(計画等の案の内容に関する質問等)

3 意見(類似の意見をまとめたものを含む。)数に応じて、適宜欄を追加して差し支えありません。

4 計画等の案の項目区分に応じて、適宜表を分割して差し支えありません。